



## 社会福祉と 学校保健の向上

神 田 豊 吉

(84才)

現住所 南秋田郡飯田川町

神田氏は、飯田川町に生まれ、明治41年私立日本医学校卒業後、秋田市土崎病院に勤務、大正2年現在地に医院

を開業し現在に至っている。この間昭和2年から方面委員、民生委員として委員間の融和を図り、要保護者の自立助長を促進し、適切な指導助言を与え、子弟の就職はもとより生活援護を積極的に行ない保護世帯の更生に尽くされた。また、民生委員協議会においては、常任委員として事例研究を行ない委員の資質の向上に努め、さらに町社会福祉協議会副会長として社会福祉協議会の組織化と町老人クラブ会長としてその育成に尽くすとともに、飯田川小学校医として50年余の長きにわたり児童、生徒の保健衛生の向上に貢献された。



## 俳句の指導と普及

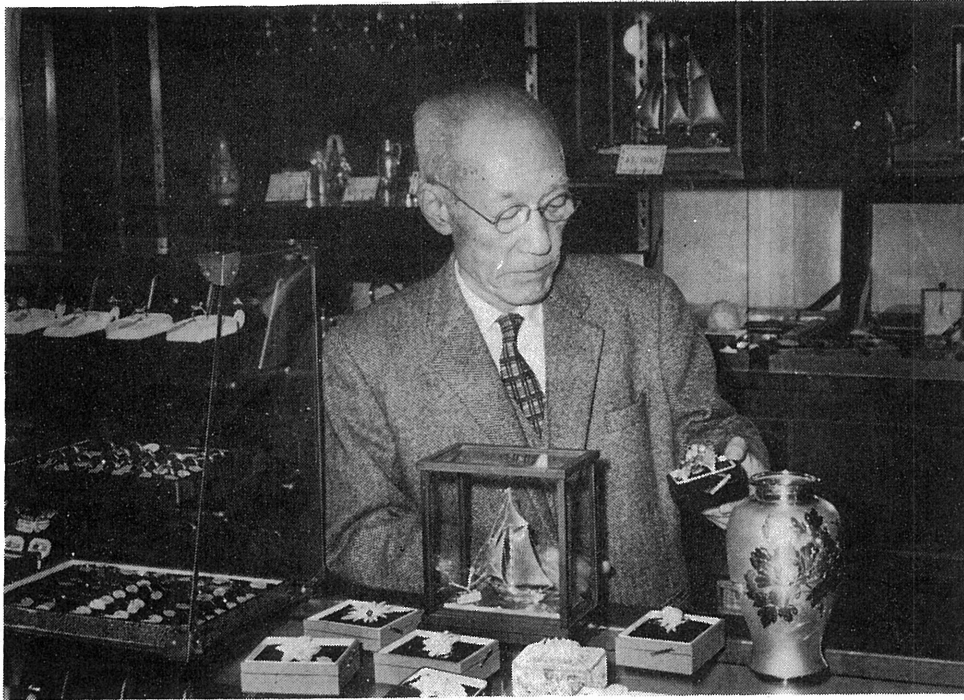
石 田 春 輝

(俳号 三千丈)

(79才)

現住所 能代市

石田氏は、増田町に生まれ、医療に従事するかたわら俳句に精励し、昭和26年から俳句雑誌俳星の主幹となった。俳句雑誌俳星は、明治33年正岡子規命名のもとでホトトギスにつぐ全国で最も古い歴史をもつもので、刊行部数400部を数え、会員は県内はもとより全国的にわたっている。氏の俳諧は、その該博な知識と豊富な経験から生まれ出る香気に満ち絢爛たる句風をもち、能代句会をはじめ県内の多くの句会に出席薫化に努めている。また、氏は、昭和32年5月第一句集「路草」昭和42年7月第二句集「翠嵐」を刊行し、本県俳壇の興隆に大きな貢献をされた。



## 金銀細工の製作研究と技術普及

竹 谷 金 之 助

(71才)

現住所 秋田市

竹谷氏は、秋田市に生まれ、大正4年21才で4代目として家業を継承し、以来技術の研究と販路の拡張に努め、本県金銀細工の隆盛に寄与された。特に佐竹藩以来の独特の技術保存のため工員の養成に尽力し、その数60数名に及び現在県内における業者の大半は、氏の教育をうけている。また氏は、東北、北海道工芸協会理事、秋田県物産協会副会長、及び秋田県銀器工芸協同組合相談役として業界の発展と産業の振興に貢献された。



## 農業気象の研究による稲作の安定増収

田 口 機 一

(68才)

現住所 仙北郡田沢湖町

田口氏は、田沢湖町に生まれ、大正2年から農業に従事し、山間高冷地における稲作の安定増収を図るため、気象観測と冷害防止の研究に努め多くの気象と稲作況のデータにより冷害を克服し、山間高冷地の稲作り指導に貴重な資料として大きな役割を果たした。また、米作共進会を開催し稲作りの研さんに尽くしたほか、生保内に農事試験場の冷害試験地を誘致し、資料の提供、技術指導を行ない、早植、早除草、水のかげひき、品種の選択、地力の増進、施肥の工夫を六原則として普及し、高冷地における稲作りの基礎を築かれ、稲作の安定増収に尽くされた。このほか、山林収入の増大と林産加工等に尽力し、農家経済の向上に寄与された。



## 木地山こけしの製作と研究

小 椋 久 太 郎

(61才)

現住所 雄勝郡皆瀬村

小椋氏は、皆瀬村に生まれ、幼少の頃から木地山こけしの技術を取得し、その伝統をよく継承し、50年余の長きにわたり、技術の研さんに努めている。1958年ベルギーで開催された万国博覧会に出品し、見事グランプリ銅賞をうけ日本のこけしの名声を高めた。この木地山こけしは、往古のロクロで仕上げを行なっており、独得の技法はよく他の追従を許さないと評価され、量感、絵付など山深く育つた健康そのものの娘ぶりを現わしており、日本の代表的なこけしとして珍重されている。



## 郷土史の研究と菅江真澄の探究

内 田 武  
(筆名 武志) (58才) (兄妹)  
内 田 ハ チ  
(54才)

現住所 秋田市

内田兄妹は、八幡平村に生まれ、静岡県に居住し、早くから郷土史の研さんを積み、昭和初年には「鹿角方言集」ほか数編を著述し刊行したが、戦争のため昭和20年5月秋田市に移住した。昭和21年「菅江真澄研究会」を設立して本格的な調査研究を続け「秋田の山水」「菅江真澄の日記」「菅江真澄遊覧記」等数々の労作を生んだ。特に兄武氏は、在学中から不治の病の侵すところとなり横臥の身にありこれら数々の労作は全く兄妹協同努力の賜であり、妹ハチ氏（現秋田大学教育学部助教授）が勤務のかたわら各地の文献資料の蒐集に献身的に尽くされたもので、両氏の菅江真澄の遺業探究に尽くされた努力と情熱は、本県文化の向上発展に大きな貢献をされた。